課程	共通課程	科目群	教養科目群

授業科目	農業・農村の暮らし	科目コード	1110013
代表教員	青山　浩子	成績責任者教員	青山　浩子
担当教員	青山　浩子		
実務家教員担当科目	○	授業科目に関連する担当教員の実務経験	本科目は、農業・農村の課題や発展に関する取材や記事執筆等の実務経験をもつ教員が担当する科目である。

配当年次	1年		必修・選択区分	選択	
配当学期	後期	単位数	2単位	授業回数	15
アクティブラーニング	-				

開講キャンパス	新潟キャンパス

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針）との関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
食料産業を理解することができる	新たなビジネス創造を指向することができる	諸課題を解決する意欲を有することができる	地域の活性化や社会の発展に寄与することができる	他者と協力して物事に取り組み、成果を導くことができる
◎	○	○	○	

授業概要	農山漁村は、食料の生産・供給基地としての役割を担っている。しかし、少子高齢化による内需縮小、担い手の高齢化、一次産業の人材不足などの諸問題に直面している。一方、食品産業のグローバル化、情報技術の進展より、農山漁村に求められる役割、機能は大きく変化している。現在の農業・農村が果たす多面的な機能を理解した上で、新しい農業・農村のあり方や発展方向について習得する。
到達目標	本科目では、まず、農業・農村が持つ食料生産基盤としての価値、農村特有の行動規範や生活態度などを習得する。次に、現在の農業・農村が抱える課題を理解した上で、課題解決につながる地域資源を活用した取組や企業等との連携方法等を学ぶ。それらを通じて、農業・農村が持つ多面的機能や魅力をいかしながら、農業・農村を発展させる方法を考えるための基本的知識を身につけることを目標とする。

回数	授業計画	担当教員
1	ガイダンス（授業のねらいと進め方、評価方法説明）、序説（農業、農村の暮らしを学ぶ意義）	青山浩子
2	農山漁村の暮らしと仕事	青山浩子
3	農山漁村が担う機能、価値、課題	青山浩子
4	食料生産基盤としての農業農村の価値	青山浩子
5	農山漁村の地域資源の活用①農産物直売所	青山浩子
6	農山漁村の地域資源の活用②農産加工、農家レストラン等	青山浩子
7	農山漁村における新たなビジネス（１）企業との連携	青山浩子
8	農山漁村における新たなビジネス（2）米関連のビジネス	青山浩子
9	日本の農業・農村が直面する課題と対応（1）気候変動	青山浩子
10	日本の農業・農村が直面する課題と対応（2）人材確保	青山浩子
11	農業で広まる多様な人材の活用	青山浩子
12	内発型地域づくり	青山浩子
13	都市から農村への移住の動き・若者による起業活動	青山浩子
14	農山漁村と環境問題（SDGsの視点から）	青山浩子
15	まとめ（全体を通してのポイントの再確認、試験についての説明）	青山浩子

評価方法	定期試験：筆記試験またはレポート（60%）、課題（40%）
教科書（必ず購入する書籍）	教科書は指定しない。担当教員作成による資料を配布する。
参考書 等	生源寺眞一著『21世紀の農学　持続可能性への挑戦』（培風館、2021）ISBN:978-4563084028

事前学習			
事前学習時間（分）	120分	事前学習内容	授業テーマに関する資料収集を行う。
事後学習			
事後学習時間（分）	120分	事後学習内容	配布した資料及び授業中のノートなどを復習し、課題レポートを指示した場合は、期日までに作成及び提出をする。

備考	来訪時は事前にメールでアポイントメントをとること

担当教員連絡先メールアドレス	hiroko-aoyama@nafu.ac.jp

【ディプロマ・ポリシー（卒業認定方針)】
本学を卒業するために身につけるべき力(知識・理解・技能・姿勢)を定める基本的な方針

知識・理解	食品や農産物に関わる専門知識を有し、それらの生産から加工、販売までを一連のフードチェーンとして捉え、成長産業としての食料産業を理解することができる。
思考・判断	修得した専門知識に基づき、食料産業において、マーケットインの発想をもって、新たなビジネス創造を指向することができる。
関心・意欲	国内外の食料、農業、経済、環境をはじめとする社会の情勢に関心をもち、諸課題を解決する意欲を有することができる。
態度	食料・農業に関する新たな価値を創出し、地域の活性化や社会の発展に寄与することができる。
技能	サイエンス・テクノロジー・ビジネスの能力を兼ね備え、自らの思考・判断の経緯や結果を論理的に説明でき、他社と協力して物事に取り組み成果を導くことができる。